

金剛寶戒寺便り

九月一日発行 第十八号

檀信徒の皆さま残暑見舞い申し上げます。

朝晩は幾らかしのぎやすくなつた気が致します。暑さ寒さも彼岸までと申します。もうしばらくの辛抱です。

さて、今年も盆月の草取りと大掃除を八月二日に行いました。約一時間、三〇名以上の方が汗を流して下さいました。私のミスで大分市の清掃活動の日と重なつてしまいました。が、お陰様で綺麗になりお盆を迎えることが出来ました。ありがとうございます。

また、八月二十一日の千巻心経では四十名以上の方と共に般若心経をお唱え致しました。年々若い方の参加者が増えているのがうれしいです。般若心経はわずか二百七十八文字のお経ですがとても功德の高いお経です。月参りの時にもお唱えしています。ご存じの方は是非ご唱和下さい。

お経は決して暗唱する必要はありません。お経本を見てお唱えするのが本義です。はじめは誰でもスラスラとお唱えは出来ませんが気持ちスツキリしますよ。

同日の十九時から供養盆踊りを境内で行いました。昨年よりも多く百八十名以上の方が参加下さいました。最後の抽選会では子供たちが目をキラキラさせていたのが印象的でした。初盆をお迎えになつたご親族様にとつては寂しい夏となりましたが良いご供養が出

来たと思つております。

七月号に続き「仏前のおつとめ」(仏前勤行次第)の説明をさせて頂きます。懺悔文の次は三帰(さんき)です。

弟子某甲 尽未来際

帰依仏 帰依法 帰依僧

意識すると「ここに、仏さまの弟子となつた私は、いつまでもいつまでも仏様と法(その教え)と僧侶を信頼いたします。」となりません。

三帰の次は三竟(さんきょう)です。

弟子某甲 尽未来際

帰依佛竟 帰依法竟 帰依僧竟

意識すると「ここに、仏さまの弟子となつた私は、いつまでもいつまでも仏様と法と僧侶を信頼しつつ、信心すると堅く心に決めました。決して疑いの気持ちをおこしません。「竟」とは「終わり」のことです。「きわめつくす」と意識しています。

順風満帆な時には神仏に感謝出来ても、解決し難い事柄に当たるといつい「この世に神、仏など居るのだろうか？」と不安な気持ちになつてしまいませんか？しかしこの三竟で誓いの心を新たにします。

八月より当山に墓地をお持ちのお檀家さんにゴミの分別をお願いしています。

環境問題やご近所への配慮から供花などの焼却を控えています。お寺としても雑草等が生えないようにコンクリートを張つたり供花

の粉碎などをして有料ごみの量を減らしていますが、お墓の維持管理には想像以上に時間と費用が掛かつております。

年に数回、外部より草取りの方にもお願いして維持を務めております。ご協力をお願い致します。

十月八日(木曜日)午後二時から

金剛寶戒寺本堂に於いて

講師 西村慶治さん

「老若男女で多種多様な豊の国」

〜豊かな暮らしは、あなたの一歩から〜

西村さんは人材育成や能力開発・キャリアカウンセリング・リーダーシップ、モチベーションヘルス対策などを専門分野に様々な所で講師、講演をされています。

見た目はとてもソフトな方ですが、理にかつた行動力の持ち主です。人生を豊かにするヒントをお話下さると思います。

お盆が終わりますと一寸、お参りの少ない時期を迎えます。普段は家内に任せきりの子育てや家の事にも少し協力をしようと思いが行きます。男ばかりの三人息子、出来の悪さは親譲りで仕方ないと思えますが、思うようには言う事を聞いてくれません。悪い所は全部自分に似ている気もします。「子育ては己育て」と言いますが三帰三竟に有るように子供からも信頼される僧侶になりたいものです。合掌